

私の仕事～社会人3年目のお話～

54期 萩野皓介

1) はじめに

皆様こんにちは。54期の萩野といたします。サクッと自己紹介だけ失礼いたします。

1996年生まれ(執筆時は25歳)、生まれも育ちも埼玉県、大学は都市環境学科で研究室は地盤系、バイトは某牛丼チェーン店、暇があればゲームかyoutube、あだ名は「親方」で通っております。

学部卒で就職を行い、ただいま就職3年目になります。今回の季刊誌では、これまでの仕事について書くことができればと思っております。

2) 0年目 ～ただの学生時代のお話～

学生時代は大学で授業受けて、バイトして、ボートして、ゲームをしている学生でした。ボートの同期と行った台湾への卒業旅行で初めて飛行機に乗り、初めての海外楽しい思い出です。(右写真、顔は見せない形で)

そんな大学生活の中、大学3年後期から公務員講座を受講して公務員試験に向けた勉強を始めました。元々は地方公務員を目指していましたが、気づけば国家公務員試験を受けていました。そして受かり、国家公務員になる資格を手に入れました。もったいないと思い官庁訪問を受け、気づけば国交省から内定をいただき、晴れて就活終了です。さぁ勤務地はどこかと思っていた3月に家に封筒到着。研修のお知らせかと開けたら、道路事務所と函館の文字。北海道行き決定した瞬間です。



3) 1年目 ～函館で仕事開始～

22年間実家暮らしの男が初の一人暮らしを函館の地で開始しました。家事に不安はありませんでした。実家でやってきてよかったと思いました。8km近く官舎から事務所が離れていたため、1年目から車通勤。出費にはなりますが致し方ないですね。官舎から飲み屋(五稜郭のほう)が近かったので、飲み会後の帰宅は楽でした。また、函館の方は温かい人がとても多く、よくしてもらいました。気温はとても寒かったですが。あと、ご飯がめちゃくちゃに美味しかったです。透明なイカが今でも恋しい限りです。あとは、初めての雪国生活。ちょっと放置すると右の写真みたくになってしまう世界、最初は新鮮でしたが3回目以降は飽き飽きでした。(写真は自分の車ではありません。同じ官舎の誰かの車です。)



本題の仕事では、函館の道路事務所で大規模道路の工事の管理を行っておりました。1年目のペーパーで右も左も分からない中、図面の見方から単語の意味等々、本当に1から10まで教わりながら働いておりました。

暇さえあれば自分の担当から他の課の現場を見に行き、多くの現場経験をさせていただきました。見た現場のうち、1本は昨年度開通、そして自分が担当していた現場は今年度開通予定であり、とても楽しみです。某建設会社の「地図に残る仕事」という広告がありますが、実際に現場の工事を進めているのは建設会社ですが、その元の計画や管理を行っている施設管理者側も同じことが言えるな、とつくづく思います。今後、現場に近いところで働ける環境がとても少ないと聞くところですので、大切にしたい1年間でしたが、個人的には大満足な1年間でした。

唯一の悲しいポイントが、この異動のタイミングで新型コロナウイルスが広まり始めたことです。ここから自由な飲み会が制限され始めました。課長がお酒好きな方でしたので、土曜日にお昼から夜まで12時間くらい飲むという今思えばよくできたなと思う休日も過ごすことができなくなってきました。

1年で異動と知っていたので、次はどこかと待っていたら、札幌へ異動、仕事は道路の防災系とのこと。防災系は興味があったので嬉しい異動でした。

4) 2年目 ～札幌で天気との闘い～

4月に函館→札幌へ異動。道路維持の中の防災担当。夏場は雨による土砂災害、冬場は雪害に向けて、平常時から体制の確認や災害発生時に備えた準備を行っておりました。天気予報をすごくよく見ていた記憶があります。何も起きないといいなという期待を込めて。また、天気のみに限らず、地震発生時に向けた道路啓開計画の策定なども行っておりました。もちろん、準備のみではなく対応も行っておりました。災害対応というと現場に行き行って指示出しというイメージがありますが、それは各事務所の方々がやってくださりますので、自分は北海道内の情報を集約（国管理分になり、北海道庁管理分は別）し、通行止めが何か所か～等々のとりまとめを行っておりました。冬場の忙しいときはお昼も食べられず、死んだような眼をして働いていたと思います。

また、災害担当ということで、防災携帯という時間外に何かあったときに電話がくるものを週替わりで所持しておりました。GWや年末年始も所持しており、休みが休みに感じておりませんでした。

なお、私生活というものは、防災携帯とコロナに支配され、外出はほぼせず、ひたすらゲームをしていた記憶しかありません。オンラインでつながれるので、ポート部の同期や後輩とゲームもできて満足です。また、雪は函館とは比べられないほどに降り、官舎前の雪かきは当番制で朝と夜と疲れていてもやらねばならないときは辛いものでした。

そんなこんなで札幌での1年間も経とうとしている中、4月から異動という宣告。通例です。問題はどこかな？というところでしたが、インフラメンテナンスの全般を担当している部署。関東へ帰還です。

5) 3年目 ～関東への復帰（現在）～

4月から、今の職場に異動してきました。自分の役割は、大まかに言うとインフラメンテナンスにおいて新技術の導入を促進させていこうという役割です。昨年度から今年度で立ち位置が大きく変わったポジションで、引き継ぎも5人から受け、試行錯誤しながら仕事をしております。なんだか何でも屋のような役割になりかけております。大学時代にも同じ雰囲気があり、若干ではありますが性に合っている気がします。いろいろな対応があり、悩むポイントは多いですが（病む悩みではありません）楽しんで仕事しております。おそらくですが、課内で一番声が大きいのは自分で、一番笑っているのも自分な気がします。

6) 3年働いた感想

諸先輩方の仕事歴からすると、あまりにも短い仕事歴ですが、これまで働いて思ったことを少しでも参考になればと思い記載しておきます。あくまで個人的な感想であり、来年には違うことを話していると思いますが。

①コミュニケーションが結局大事。

上司はもちろん、他の課や仕事に関わりのある人（自分の場合受注者等々）との関係はとても大事だと思いました。何かあったときに頼れる人、協力して対応できる人、バカバカしい話ができる人などが周りにいるといいなと思っています。上に立つ人は考え方違うと思いますが。

②リフレッシュ方法を見つける。

結局全部が全部うまくはいきません。そんな時に切り替えるためにも、何かいいリフレッシュできるものがあるとよいと感じています。自分の場合はゲームですけれども。ボート部の同期や後輩と一緒にやりながら話できたりと、ありがたい限りです。

③理想と現実の違い。

これは仕方ないと思います。すべて思い通りなどありません。1年目北海道行きましたが、正直希望はしておりませんでした。しかし、今となっては北海道でよかったと思っているところです。違うとわかっていても突っ込んでみることも大事と自分では思っています。

7) おわりに

これまで、長々と書いてきましたが、あくまで大枠になります。何か気になること等々ありましたら、ぜひ毎年行われているOBOG新歓や納会、初漕ぎ等々の時に聞いてもらえればと思います。基本参加予定です。現役はもちろん、多くのOBOGに愛される理工ボート部を期待しております。

右の写真は、同期と沖縄行った時の写真です。よい仲間ができて嬉しいです。

